

団体名  
所在地 広島市安佐南区安東5丁目15-22  
ひろおく だんち じしゅ ぼうさいかい  
団体名 弘 億 団 地 自 主 防 災 会  
代表者名 柳 原 隆 司

<https://hirooku.site>



団体の紹介

約1300戸、3500人が居住する団地で、平成25年5月に団地の一部（251戸）が「土砂災害警戒区域」に指定された。平成26年度の自治会役員の提案で、特に土砂災害警戒区域の防災について勉強会を始めた。同年8月には広島土砂災害の発生もあり、まずは土砂災害について広島市の土砂災害警戒避難マニュアルによる体制を構築し、同年10月より防災活動を開始した。令和元年4月からはICT（スマホ）を活用した防災活動に取り組んでいる。又令和元年7月より土砂災害警戒区域外の「避難行動要支援者」を対象にした支援も活動に加えている。

尚、防災会メンバーは防災委員23名と協力委員7名及び専門委員44名で活動している。  
\*協力委員－平時、災害時に防災委員の要請に応じ、応援  
\*専門委員－災害時に防災委員の要請に応じ、応援

活動状況

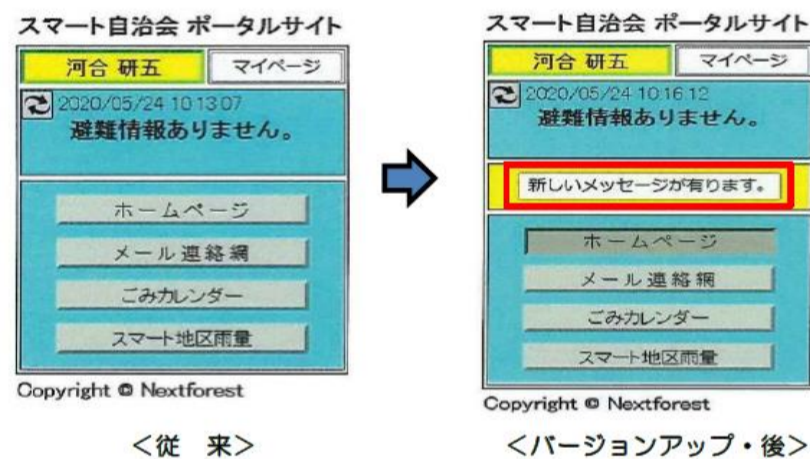
令和元年4月より「インフォメーションからコミュニケーションへ」をキャッチフレーズに「公益信託広島市まちづくり活動支援基金」の助成を頂き、防災活動を人海戦術から、ICT（スマホ）活用に移行すべく「安否確認システム」を導入しました。防災活動関係者及び住民に対して説明会を開催し、理解を求めるとともに「安否確認システム」を使った避難訓練を実施し、効果の検証をしてみました。そして今年度は、昨年度実施した避難訓練の検証結果をもとに、「安否確認システム」のバージョンアップをし、分かりやすく使いやすいシステムとすべく改善に取り組みました。

主なバージョンアップ内容は次の通りです。

- ★①「安否確認システム」を立ち上げていない状況で、防災会から防災情報メールを出している時、個人カードのQRコードを読み込むと、ポータルサイトが表示され、画面に「新しいメッセージがあります」表示が出て、これをクリックすることで防災会からのお知らせメールを表示し、受信者は既読確認及び返信メールを発信することが出来る。
- ★②「安否確認システム」と「連絡網システム」の使い方は、「弘億団地自主防災会ホームページ」のトップページ、メニュー項目内「操作説明」をクリックすると、画像と簡単な文章で表示されますが、更に分かり易くすべく動画を作成し、ユーチューブにアップしました。ユーチューブの検索ボックスで「安否確認システム 安否情報発信」と入力します。

バージョンアップ★①

受信未設定でも住民カード記載のQRカードの読み込みで表示



バージョンアップ★②

YouTube トップ画面



尚、バージョンアップをした「安否確認システム」を住民、防災関係者へ幅広く展開、定着させ、効果的に活用出来るようにするべく住民の防災意識の向上を目的とした<ミニ集会>を241戸の住民を対象に11回に分けて11月から実施し、7回は開催出来ましたが、新型コロナウイルスの影響で4回は延期としております。未開催対象住民に対してはできるだけ早く実施出来ればと考えています。又9月にはバージョンアップをした「安否確認システム」の展開、定着を図るために「安否確認システムのとり扱い方法」をいつでもYouTubeで覧れるようにしました。

今年度の避難訓練は5月に予定をしていましたが、新型コロナウイルスの影響で、一時避難所へ避難する訓練ができない状況となった為、「安否確認システム」「安心メール」「固定電話」を使った、安否確認通信訓練を6月と9月の2回実施しました。。

活動成果と今後の課題

昨年度から「安否確認システム」を立ち上げ、住民への説明会を開催し、避難訓練を2回実施しました。今年度は新型コロナウイルスの影響で避難訓練を中止し、6月と9月に安否確認通信訓練を実施し、安否確認率は50%以上でありましたが、7月6日に発令された、<避難勧告>時の安否確認率は30%程度と低い値となっています。これらの状況を踏まえ、使いやすい「安否確認システム」への改善と、住民への継続した「安否確認システム」の説明会（ミニ集会）を実施し、安否確認率の向上に取り組んでいきます。特にミニ集会などに参加できない住民には、それぞれに応じたフォローが必要と考えています。又ミニ集会において、内閣府防災統括官より4月21日付で通知されている「避難の理解力向上キャンペーン」を参考に「自らの命は自ら守る」意識を一人一人に醸成させるべく、避難行動を促す防災の理解力を向上するための普及啓発活動を促進していきます。